CIP（cataloging in publication）をめぐる図書館と出版界
―1971 年開始までのアメリカの状況を中心に

岸　美雪（慶応義塾大学大学院）
miykis@slis.keio.ac.jp

1 研究目的と背景

1.1 はじめに

Cataloging in Publication（以下、CIP）とは、出版前の資料に対し標準的な目録情報を作成し、出版時に標題紙裏面などに掲載するもので、1971 年に米国議会図書館（以下、LC）が開始した。2004 年の IFLA 調査によると 25 の国立図書館で実施されている[1]。事前情報で未確定な出版や形態に関する事項は省かれ、書名、著者、分類、件名などが示されるのが通例である。

CIP は出版社からの事前の出版前情報の提供、それにもとづく目録作業、出版社への目録データのフィードバック、出版物本体への掲載というプロセスには出版社との共同が不可欠である。CIP について、従来は、図書館が目録作業に要するコストを削減する「集中目録作業」としての効果を中心に論じられてきた[2]。しかし、編集や出版プロセスに影響することを考えると、図書館だけではなく、出版社にもその効果や意義があると考えられているからではないか。CIP を出版流通と図書館との接点としての側面に着目し、新刊出版物データの出版界との共有、という点からとらえる必要がある。

本研究では、米国での導入時における議論から、出版社との関係に焦点をあてて、論点整理と考察を試みる。

1.2 米国の CIP プログラムの現状

米国では、CIP プログラムが 1971 年に開始され、現在も行われている[3]。LCの出版社向けマニュアルによれば、CIP は出版社に対して義務的なものではなく、あくまでプログラムであり、法定納本とは連動するものではない。CIP は、広く流通することを目的とした出版される前の資料に対して作成するもので、自費出版や限定した範囲の資料（たとえば会員配布資料や研究成果報告書など）、すでに刊行されて時間がたっている資料は対象としていない。出版社は CIP データ用の情報を付した出版物を LC に納入する。LC は出版物を確認し、CIP データを修正し、出版社や必要とするところに提供している。

なお、印刷カード事業としての歴史をもつ LCCN(Library Congress Card Number、現在は LC Control Number)[4]の付与を行う PCN (Preassigned control number) の登録と CIP はどちらか1つを選択することになり、互いに排他的である。

2 米国における CIP の導入

2.1 1870 年代の思想的先駆

書物という物理的な媒体にその書籍自体の書誌事項を印刷して頒布する、という考えは、1870 年代に遡る。1876 年には Justin Winsor の提案により、短期間実験が行われた[5]。その当時の出版事情、印刷技術や通信手段の限界から、この実験は不首尾に終わる。次に CIP にいたる転機となったのが、1958 年 6 月から 1959 年 2 月にかけて行われた cataloging-in-source（以下、CIS）

である。

2.2　CIS の実証実験

CIS（cataloging-in-source）は、LCが全米図書館財団（Council on Library Resources）の資金援助を受け、1958 年 6 月から 1959 年 2 月にかけて行ったプログラムである[6]。米国の出版社をつのり、出版前の校正刷りと所定のデータシートを LC に郵送してもらい、LC は4から5日でデータシートと校正刷りをもとに印刷カードデータを作成し、校正刷りとともに出版社に返送する。出版社はその印刷カードデータを書籍の標題紙など（Copyright page）に印刷する、というものである。全米から 157 社が参加し、実験期間中 1203 点のタイトルに対してデータが作成された。この実験に参加した出版社、200 社を超える各種図書館など、関係者の意見を調査し、1960 年3月、LC は最終報告書[7]において、主として、LC の財政的な負担、目録作成事務の負担を理由に、CIS の本格的導入を見送る結論をまとめた。

2.3　CIS から CIP へ

最終報告書中に出版社や図書館から肯定的な意見が見られたにもかかわらず、1960 年に LC が CIS の本格導入を見送ったことに対して、賛否両論がおこった[8]。Sanford Cobb，Joseph L.Wheeler[9]， Verner W. Clapp は、推進派としての論陣を張るとともに、関係者間の調整をはかった。こうした流れの中で、1971 年 7 月から、LC の新たなプログラムとして、CIP が実施されることとなった。

2.4　CIP の実施

新たなプログラムへの動きを加速させたのは、Verner W. Clapp が中心的な役割を果たした 1970 年に行われた図書館向けの調査と出版社向けの調査である[10]。

1970 年 5 月に多様な 391 の図書館に質問紙を送り、59%の回答を得た。回答者のうち、65%が大いに歓迎、32%が関心あり、とした。また、続く 1970 年 9 月、出版社向けの呼びかけを行い、100 社以上から好意的な回答を得た。この背景には、AAP(Association of American Publishers,Inc.)の強力な支援があった。出版社、図書館界双方の意向をもとに、LC はCIPを実施を決定した。1972 年 12 月までに、全米の出版社 400 社が参加し、13,000 タイトルが作成された。

3　出版社から見た論点

3.1　CIS 最終報告書から

CIS 最終報告書（1960）では、次の 6 項目について、参加した出版社に意見聴取を行っている（①校正刷り郵送、②データシート、③編集作業の中断、④デザイン、⑤コスト、⑥その他）。当時、書籍はオフセット印刷が通常であったが、限定的な出版物やリプリントなどの場合、オフセット印刷以外（リソグラフなど）には、校正刷りが複数部作られないものもあり、印刷プロセスの如何で、CIS データ作成用の校正刷りを 1 部 LC に提供することの容易さは意見が分かれる。また、出版社の規模により、全体の業務への圧迫感には温度差がみられる。そのほか、校正刷りの段階ではまだ巻末索引を作成していないため、郵送の段階では索引なしのゲラになること、巻末に書誌データを印刷するための白ページを残しておくのは技術的に困難なことなどが、指摘された。

データシートへの記入は、校正刷りの送付があるのであれば煩雑なので不要だとするものもあれば、データシートはよく考えられているし、記入にもそれほど時間はかからない、とする意

見もみられる。CIS データが作成されて出版社に通知されるまで、本作りの作業が中断されることについて、書籍刊行のスケジュールがどのくらいゆとりがあるか、に影響をうけるが、著者に校正刷りを返しているのと平行して LC にも送っているので、1 週間以内に戻ってくるのであれば大きな障害にはならない、とする意見が大半である。デザインについては、CIS データが、LC の印刷カードの体裁をとっていて、本のデザインにそぐわない、ということはかなり指摘されて、書体を変える、カードの体裁をイメージしないレイアウトに変更する、といった工夫を行っている。CIS データを付与するためのコストについて、1タイトルあたり 2 ドル程度とするところから 60 ドルとするところまで、ばらつきがある。ただ、年間のタイトル数で計算すると、それなりのコストである、ということは共通している。このコストを是とするか否とするかは、このプログラムで、出版社にとってどのようなメリットがあるか、ということへの判断にかかってくる。

肯定派の主張は、図書館への売り上げ増がみこめる/限定的な出版物に対してではなく、すべての出版物に付与されれば、出版物全体の把握ができる/実際の手間はそれほどではないし、書店や図書館で評判がよい/図書館の役に立つ、というものであった。

一方、否定派の主張は、目録情報は、出版する書籍に載せるよりも別の方法で普及させてほしい。図書館の役割を出版社に負わせるものである/出版はビジネスでありフィランソロフィー（社会貢献）ではない/人手が少ないところであれこれ余計な作業が加わるのは煩雑である、などが代表的であった。また、問題提起として印刷カードとの関係を指摘するものもあった[11]。

3.2 CIP 導入にあたっての出版社調査

1971 年の導入にあたって、LC の資料組織部門 Director である William J.Welsh は次のように述べている[12]。

・CIS では、校正刷りについて page proofs を用いていたが、今回の CIP では出版作業の早い段階で作られる galley proofs を使用することで、出版物の発行のスケジュールに影響を与えないように配慮する。すでに McGraw-Hill 社との実験を行って良好な結果を得ている。

・ダストジャケットなどに記載されている情報、特に著者のプロフィールや本のテーマなどが、galley proofs の段階にはない、という点は残っている。

・出版社との共同においては対話が重要で、スピード感も必要である。

・基本記入について、著者の生年を記載すること、変名・ペンネームの著者の扱いなど、データ内容についての議論はあるが、本そのものの中に、本を同定する決定的な情報があること、1 回ですべての目的につかえる情報であることの重要性について理解が得られた。

・MARC データに CIP を投入する予定で、Publishers' Weekly や American Book Publishing Record などの出版販売書目に対して早い段階で近刊情報を一覧するために必要な情報を提供する。

4 考察

CIP の実施にあたっては、出版物の著作・編集・流通のプロセスと密接にかかわることが必要で、CIS、CIP プログラム双方とも、出版社の意向調査を行い、調整を図っている。それらの調整

のなかでは、出版物情報が出版の際に提供されることのメリット、共通のデータを使うことによる確実性の増加、については早い段階から理解がみられる。一部の出版社のみの参加ではメリットが少なく、大規模にすべての流通する出版物に使われることで効果がある、ということが、反対意見をもつものにも底流として理解されていた。実現に際して鍵となるのは、現実的なコスト、スピード、煩雑ではない処理プロセスの設定といえる。

5　むすび

今回は CIP を最初に普及させた米国の例を、導入時の出版社との関係を中心に考察した。書籍の出版のあり方については、国により文化的、経済的状況が異なるため、日本との比較については範囲としなかった。

日本における新刊データをめぐる書籍流通と図書館の関係については、先行研究[13]を踏まえ、今後の研究課題としたい。

＜注・引用文献＞

1 IFLA. “Survey of National CIP Programs; results and analysis”, 2004, IFLA

2 福島寿男「MARC データベースにおけるCIPの役割」『図書館学会年報』、28(2)、1982、p.89-91 など

3 米国議会図書館　http://cip.loc.gov/

4 LCCN は書誌レコードのコントロール番号であり、書籍のコントロール番号ではない。

5 Robert R. Newien, “Read the fine print: the power of CIP”, Library Journal, 1991, pp.38-42

6 “Annual Report of Library of Congress 1959” pp.18-19,及び “Annual Report of Library of Congress 1960”p.8

7 “The cataloging-in-source experiment; a report to the Librarian of Congress By the director of the Processing Dept.”, Library of Congress, 1960

8　William S. Dix, “Conclusions of Cataloging-in-source Report Disputed”, Library Journal, 85, p.2064, 15April, 1960, Paul S. Dunkin, “The people that walked in darkness”, Library Journal, 1 May 1966, pp.2267-2270 及び　Joseph L. Wheeler, “ Top priority for Cataloging-in-source”, Library journal, 94, 15 September 1969, pp.3007-3013

9 William J. Welsh, “Report on Library of Congress：Plans for Cataloging in publication”, Library Resources & Technical Services, 15(1),1971, pp.23-27

10 “Annual Report of Library of Congress 1971”,pp.2-3,21-23 及び Verner W. Clapp “CIP in mid－1970”, Library Resources & Technical Services, 15(1), winter 1971, pp.12-23

11　同時期の 1959 年に出版と同時に LC の印刷カードが入手できる状況をつくる、という目的で、「すべての本に LC 番号を」というプログラムが実施されており、1,200 社の参加を得て、2,000 タイトル以上の校正刷りが LC に送られてくるようになっていた。(“The cataloging-in-source experiment; a report to the Librarian of Congress By the director of the Processing Dept.” p.34)

12　William J. Welsh, “Report on Library of Congress Plans for Cataloging in publication”, Library Resources & Technical Services,15(1),1971, pp.23-27

13　湯浅俊彦『出版流通合理化構想の検証　ポット出版　2005 など